

第2章 宮崎市及び宮崎市の農林水産業の現状について

1. 宮崎市について

(1) 沿革

宮崎市は、大正13年4月1日に宮崎郡宮崎町、大淀町および大宮村の廃置分合を行い、市制を施行しました。市制施行当時は、面積45.15平方キロメートル、人口は42,920人の田園都市でしたが、その後、昭和7年4月に檜村を、昭和18年4月に赤江町を、昭和26年3月に瓜生野、木花、青島、倉岡の4村を、昭和32年10月に住吉村を、そして昭和38年4月には生目村を編入合併し、宮崎県都として産業、教育、文化、交通その他あらゆる面にわたって発展を遂げてきました。

古代日本の神話と伝説に富む本市は、昭和40年12月に「日本のふるさと観光文化都市」を宣言し、また昭和41年2月11日には、この歴史につながる縁によって、橿原市と姉妹都市の盟約を結んでいます。

また、「太陽と緑」に象徴される本市は、南北に約36kmに渡る海岸線を有し、太平洋に沿って流れる黒潮によって温暖な気候風土に恵まれ、美しい松の大樹海の一ツ葉海浜をはじめ、亜熱帯植物の繁茂する青島から堀切峠、いるか岬につらなる風光は南国的色彩に富んでいます。昭和63年には「宮崎・日南海岸リゾート構想」が国のリゾート法の第1号の適用を受けるなど、これまでホスピタリティ豊かな国際リゾート都市を目指してきました。

平成10年4月1日、政令指定都市に準ずる権限をもつ中核市に移行し、平成18年1月1日に近隣の佐土原、田野、高岡の3町を、さらに平成22年3月23日には清武町を編入合併し、現在、人口約40万人、面積644.61平方キロメートルの新宮崎市として、新たなスタートを切りました。

市域の拡大とともに新たな地域資源が加わり、さらなる発展が可能となる一方、合併などを契機とした都市構造・産業構造の変化など、新たな課題に対応していくことも必要となっており、平成20年3月に「第四次宮崎市総合計画」を策定し、目標とする都市像を「活力と緑あふれる太陽都市…みやざき…」として、「次世代につながるまちづくり」に取り組んでいるところです。

<p>市の木 くすのき</p>  <p>日本古来の木であり、関東以西に広く自生しています。成長するに従い、雄大な重厚さを増す木であり、その姿はあたかも宮崎市の発展を表しているかのようです。</p>	<p>市の花 はなしょうぶ</p>  <p>アヤメ科に属し、現在では 400 種以上の種類があります。5月から6月にかけて新緑を背景に水辺に咲き乱れる風情は私たちに心の落ち着きと日本的な情緒を味わわせ、日本のふるさと宮崎にふさわしい花です。</p>	<p>市の花木 つばき</p>  <p>ツバキ科に属し、日本原産の常緑中高木で、花の少ない1~3月ごろに開花します。日本有数の椿園である椿山森林公園には約1,000種類、48,000本余りのツバキが植栽され、平成15年には国際優秀椿園にも選ばれています。</p>
--	--	---

(2) 位置及び地勢

宮崎市は九州南東部に位置し、地形は北部から西部にかけて丘陵地が連なり、南部は鰐塚山系、双石山系の山地で占められます。市内の北端には一ツ瀬川が、中央部には大淀川、清武川、加江田川などが東流し、広大な宮崎平野を形成して日向灘に注いでいます。東部の海岸は白砂青松の砂浜が続きますが、市南部に位置する青島以南は、山地が海岸まで迫り、複雑な海岸線を呈しています。



方位	地点	経度・緯度
極 東	佐土原町下富田	東経 131° 30′ 21″
極 西	高岡町内山西和石	〃 131° 11′ 21″
極 北	佐土原町上田島巨田	北緯 32° 03′ 57″
極 南	大字内海	〃 31° 43′ 16″
距 離	東西	29.9km
	南北	38.3km

2. 宮崎市の産業について

(1) 市内総生産

平成20年度市町村民所得統計によると、宮崎市の市内総生産（産出額－中間投入額）は約1兆2,772億円となっています。第1次産業（農業・林業・水産業）は約207億円（1.5%）、第2次産業（鉱業・製造業・建設業）は約1,611億円（12.1%）、第3次産業（上記以外の産業）は約1兆1,551億円（86.4%）で、これら全ての産業による総額は約1兆3,370億円（100.0%）となっています。

市内総生産【宮崎市(清武町域含む)】

(単位:百万円)

経済活動の種類	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
農業	20,712	20,382	20,130	19,741	17,944	18,854
林業	1,377	1,465	1,258	1,026	1,061	1,289
水産業	1,619	1,497	1,010	797	778	559
第1次産業(農業・林業・水産業)	23,708	23,344	22,398	21,563	19,783	20,703
第2次産業(鉱業・製造業・建設業)	210,735	223,033	189,951	185,610	172,411	161,149
第3次産業(上記以外の産業)	1,143,967	1,142,543	1,147,573	1,162,972	1,169,723	1,155,107
小計	1,378,410	1,388,920	1,359,922	1,370,145	1,361,917	1,336,959
輸入品に課される税・関税	10,260	10,745	11,396	12,825	13,343	13,471
総資本形成にかかる消費税	▲6,137	▲7,735	▲6,160	▲7,351	▲8,326	▲8,281
帰属利子	▲67,608	▲61,527	▲64,987	▲66,174	▲65,854	▲65,000
市内総生産	1,314,925	1,330,402	1,300,171	1,309,445	1,301,081	1,277,150

平成20年度市町村民所得統計

(2) 産業・年齢・男女別15歳以上就業者数

平成17年国勢調査によると、15歳以上の就業者数は189,125人となっています。

産業別の内訳は、第1次産業が11,572人（6.1%）、第2次産業が32,922人（17.4%）、第3次産業が144,631人（76.5%）となっています。

産業・年齢・男女別15歳以上就業者数

(単位:人)

	総数			15歳～64歳			65歳以上		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女
農業	10,932	5,864	5,068	6,585	3,389	3,196	4,347	2,475	1,872
林業	195	164	31	143	118	25	52	46	6
水産業	445	364	81	341	273	68	104	91	13
第1次産業(農業・林業・水産業)	11,572	6,392	5,180	7,069	3,780	3,289	4,503	2,612	1,891
第2次産業(鉱業・製造業・建設業)	32,922	23,903	9,019	31,367	22,766	8,601	1,555	1,137	418
第3次産業(上記以外の産業)	144,631	72,470	72,161	136,524	67,605	68,919	8,107	4,865	3,242
総数	189,125	102,765	86,360	174,960	94,151	80,809	14,165	8,614	5,551

平成17年国勢調査

年齢別には、64歳未満174,960人（92.5%）・65歳以上14,165人（7.5%）となっていますが、第1次産業では64歳未満7,069人（61.1%）・65歳以上4,503人（38.9%）、第2次産業では64歳未満31,367人（95.3%）・65歳以上1,555人（4.7%）、第3次産業では64歳未満136,524人（94.4%）・65歳以上8,107人（5.6%）となっています。

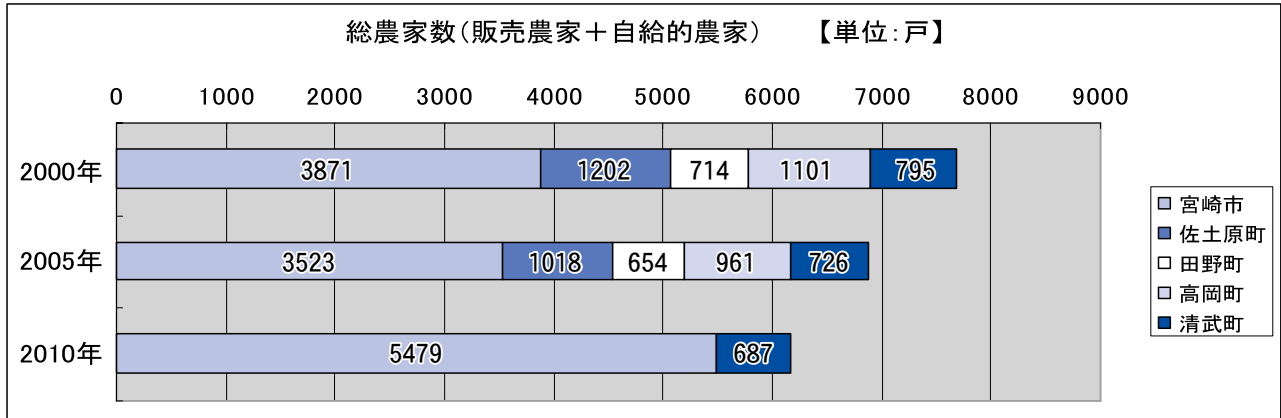
男女別には、男102,765人（54.3%）・女86,360人（45.7%）となっていますが、第1次産業では男6,392人（55.2%）・女5,180人（44.8%）、第2次産業では男23,903人（72.6%）・女9,019人（27.4%）、第3次産業では男72,470人（50.1%）・女72,161人（49.9%）となっています。

3. 宮崎市の農林水産業について

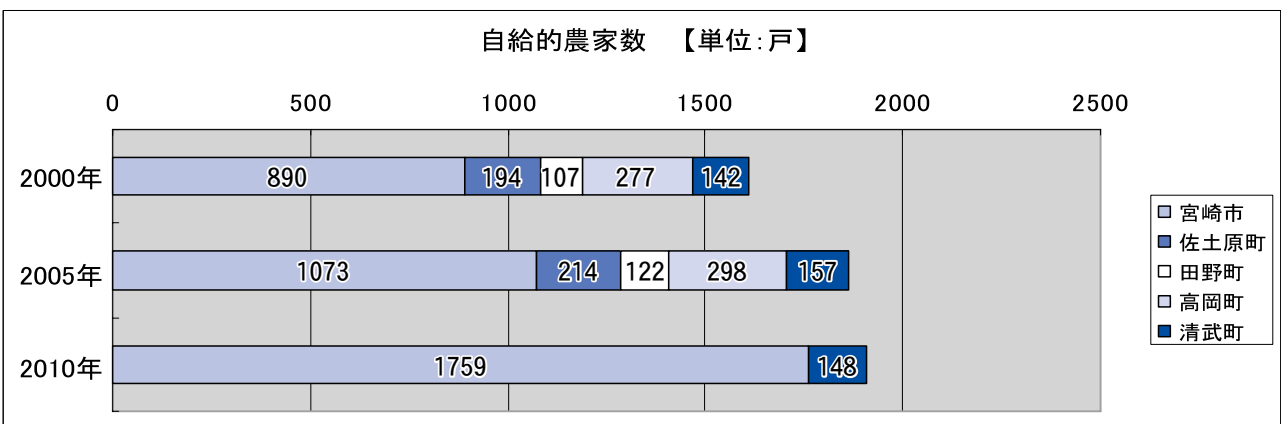
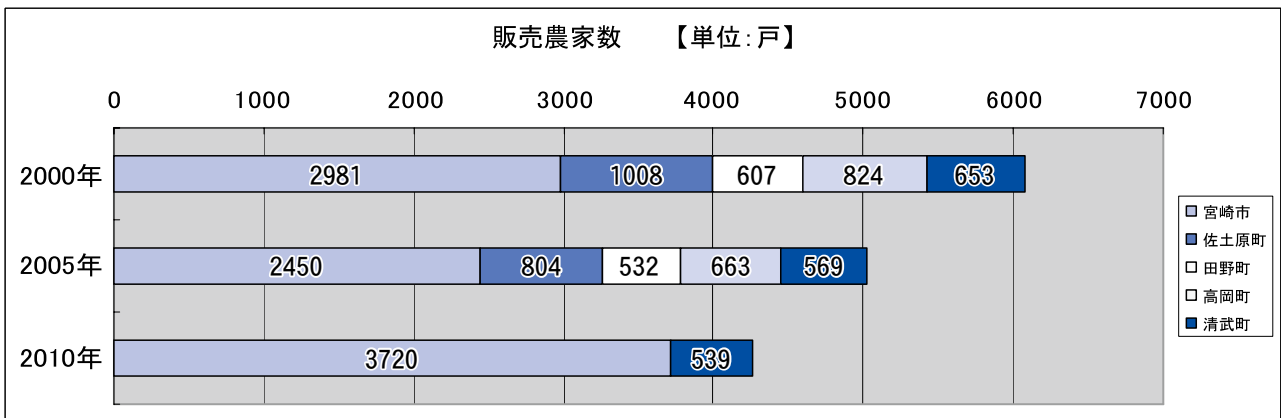
(1) 農業 ～ 2010年世界農林業センサス結果 ～

① 総農家（販売農家・自給的農家）と土地持ち非農家

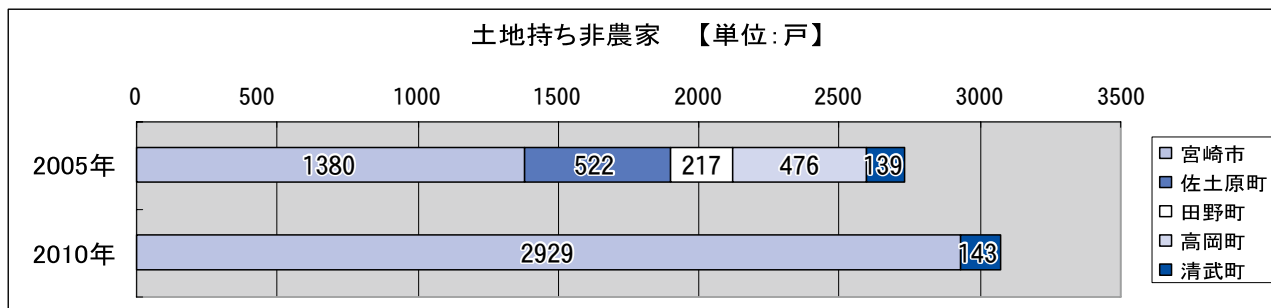
総農家数は6,166戸となり、5年前に比べて716戸（10.4%）減少しています。



このうち、販売農家は4,259戸で759戸（15.1%）減少し、自給的農家は1,907戸で43戸（2.3%）増加しています。

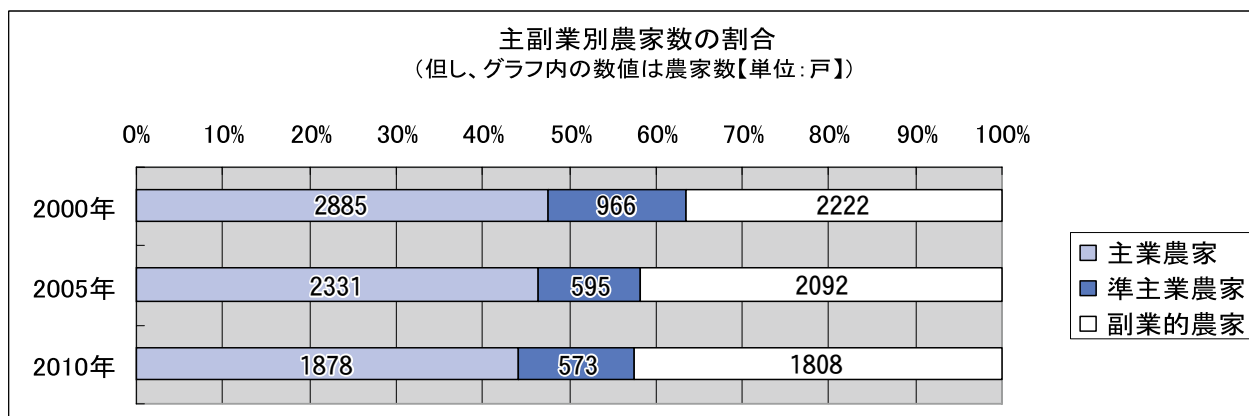


一方、土地持ち非農家数は 3,072 戸となり、5 年前に比べて 338 戸 (12.4%) 増加しています。

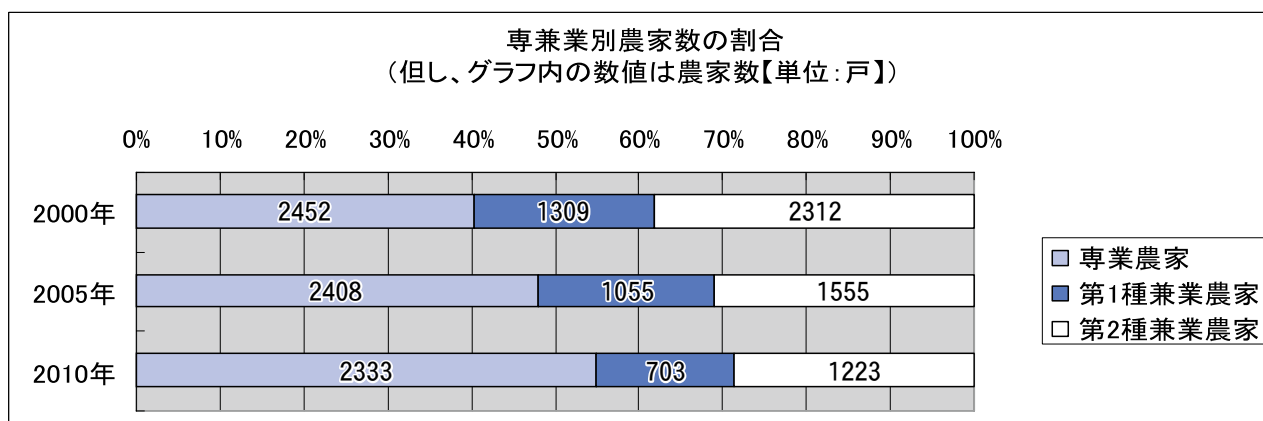


② 主副業別・専兼業別農家数

販売農家を主副業別にみると、主業農家は 1,878 戸で 5 年前に比べて 453 戸 (19.4%) 減少し、準主業農家は 573 戸で 5 年前に比べて 22 戸 (3.7%) 減少しています。また、販売農家に占める構成割合は、主業農家が 44.1%、準主業農家が 13.5%、副業的農家が 42.5% となっています。

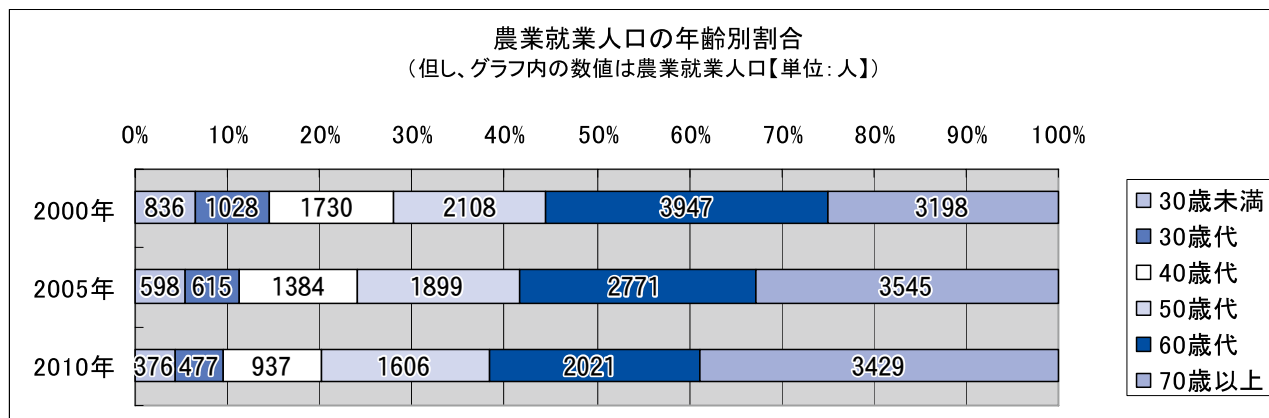


一方、販売農家を専兼業別にみると、専業農家は 2,333 戸で 5 年前に比べて 75 戸 (3.1%) 減少、兼業農家は 1,926 戸で 5 年前に比べて 684 戸 (26.2%) 減少しています。また、販売農家に占める構成割合は、専業農家が 54.8%、兼業農家が 45.2% となっています。



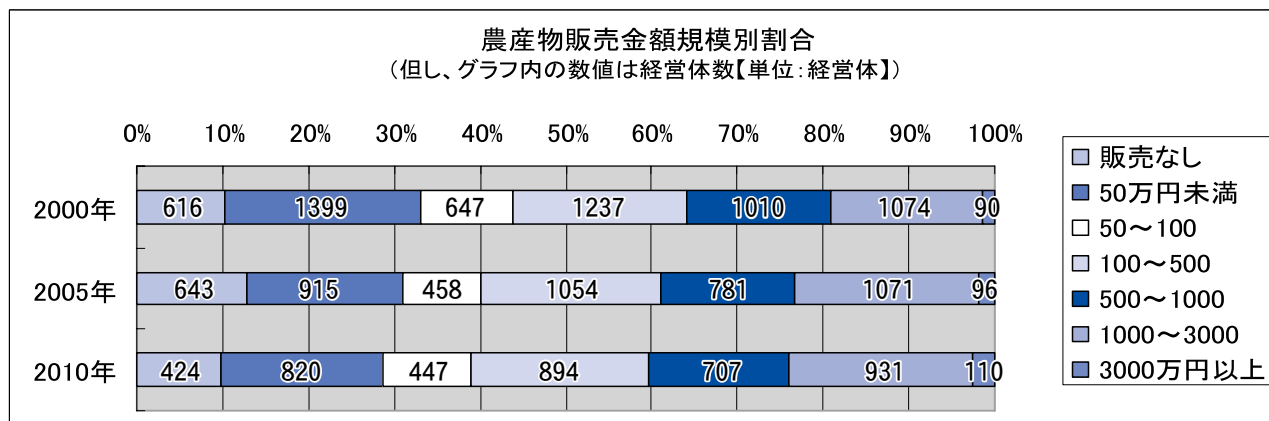
③ 年齢別農業就業人口

農業就業人口は8,846人で5年前に比べて18.2%減少しています。農業就業人口を年齢階層別にみると、70歳以上層は3,429人で全体に占める割合が38.8%となり、5年前に比べて6.0ポイント増加しています。なお、農業就業人口の平均年齢は、旧宮崎市域が62.0歳、旧清武町域が61.9歳となっていることから、市全体では、62歳程度と推測しています。



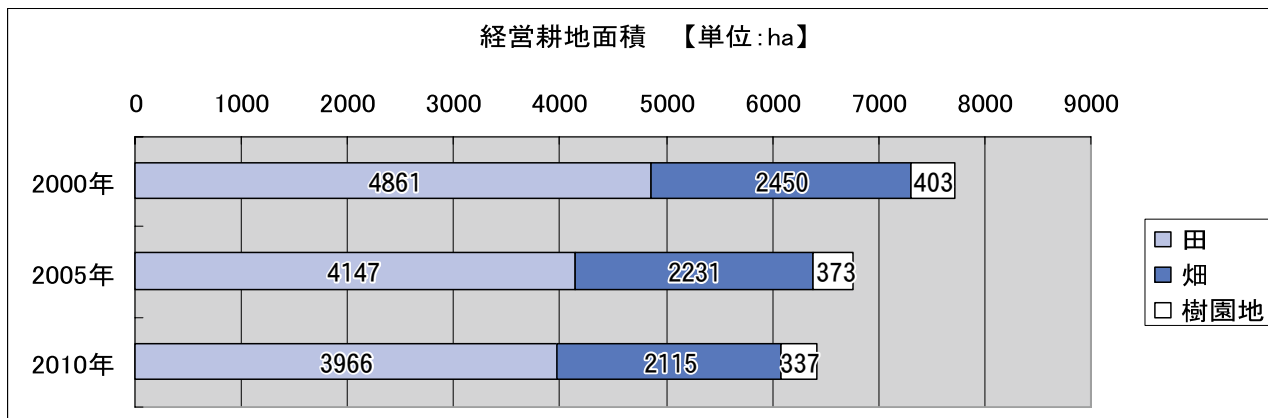
④ 農産物販売規模別経営体数

農業経営体数を農産物販売金額規模別にみると、3,000万円未満層は減少し、3,000万円以上層が増加しています。3,000万円以上層は110経営体（全体に占める割合2.5%）となっており、5年前に比べて0.6ポイント増加しています。

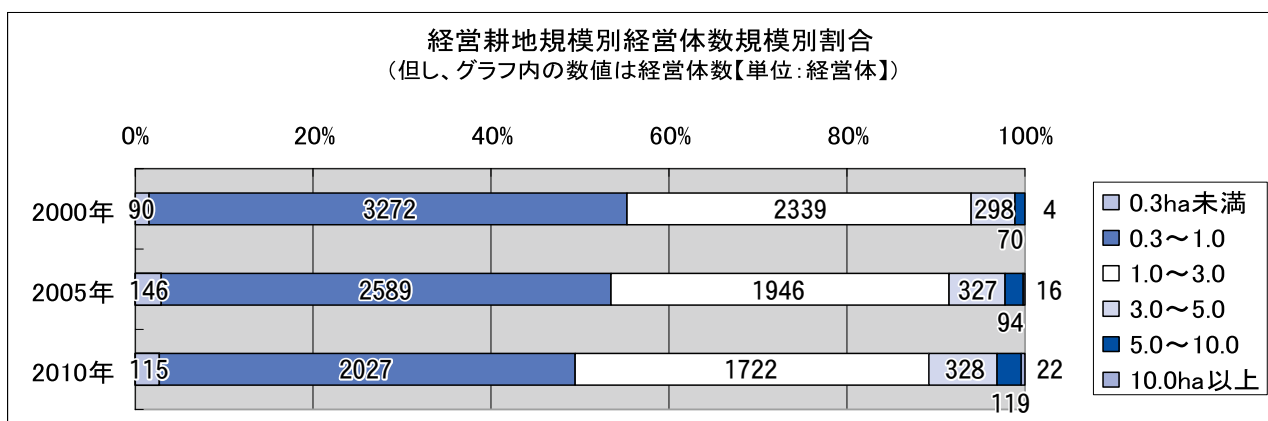


⑤ 経営耕地面積と経営耕地面積規模別経営体数

経営耕地総面積は6,418ha となり、5年前に比べて332ha (4.9%)減少しています。

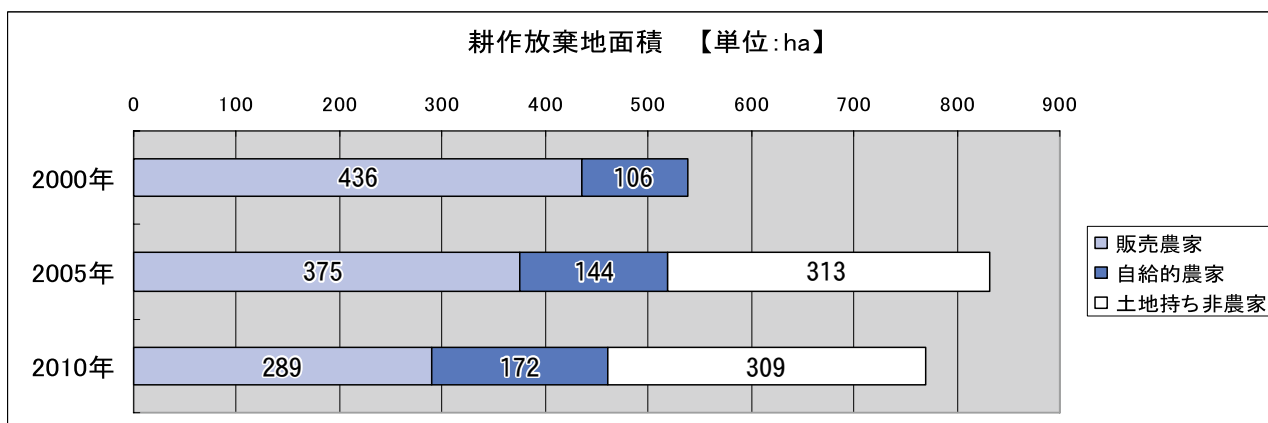


経営耕地面積規模別に経営耕地面積の集積割合をみると、3ha 以上層が 469 経営体（全体に占める割合 10.8%）となっており、5年前に比べて2.3ポイント増加しています。



⑥ 耕作放棄地面積

耕作放棄地面積は770ha となり、5年前に比べて62ha(7.5%)減少していますが、自給的農家の耕作放棄地面積は19.4%増加し、土地持ち非農家の耕作放棄地面積はほぼ横ばいとなっています。一方、販売農家の耕作放棄地面積は22.9%減少しています。



(2) 林業

① 林家数・経営体数・スギ素材生産量

1ha以上の山林を有する林家は1,410戸で、そのうち3ha以下の林家は1,031戸と全体の73.1%を占めています。また、100haの以上の山林を有する経営体は11あり、全体の10.8%となっています。

○保有山林面積規模別林家数(2010年世界農林業センサス)

単位:戸

区分	計	1～	3～	5～	10～	20～	30～	50～	100～
		3ha	5ha	10ha	20ha	30ha	50ha	100ha	500ha
宮崎	641	451	100	38	34	7	4	2	5
佐土原	103	84	9	9	1	—	—	—	—
田野	181	147	14	8	6	5	—	1	—
高岡	330	251	46	21	7	4	—	—	1
清武	155	98	30	14	4	4	2	2	1
宮崎市	1,410	1031	199	90	52	20	6	5	7

○保有山林面積規模別経営体数(2010年世界農林業センサス)

単位:経営体

区分	計	保有山林なし	5ha	5～	10～	20～	30～	50～	100ha
			未満	10ha	20ha	30ha	50ha	100ha	以上
宮崎	46	3	18	8	4	3	2	1	7
佐土原	3	—	2	1	—	—	—	—	—
田野	14	—	4	2	2	2	1	2	1
高岡	12	2	7	1	1	1	—	—	—
清武	27	—	12	6	1	1	2	2	3
宮崎市	102	5	43	18	8	7	5	5	11

○スギ素材生産量

単位:m³, %

	2005年	2010年	増減数	増減率
全国	13,823,670	15,620,691	1,797,021	13.0%
宮崎県	1,186,558	1,365,343	178,785	15.1%
宮崎市	76,574	79,720	3,146	4.1%

② 林業総生産

林業総生産は847百万円で、第1次産業に占める割合は3.45%、全産業に対して0.06%となっています。

宮崎市総生産と林業総生産(県林業統計要覧 平成22年)

単位:百万円

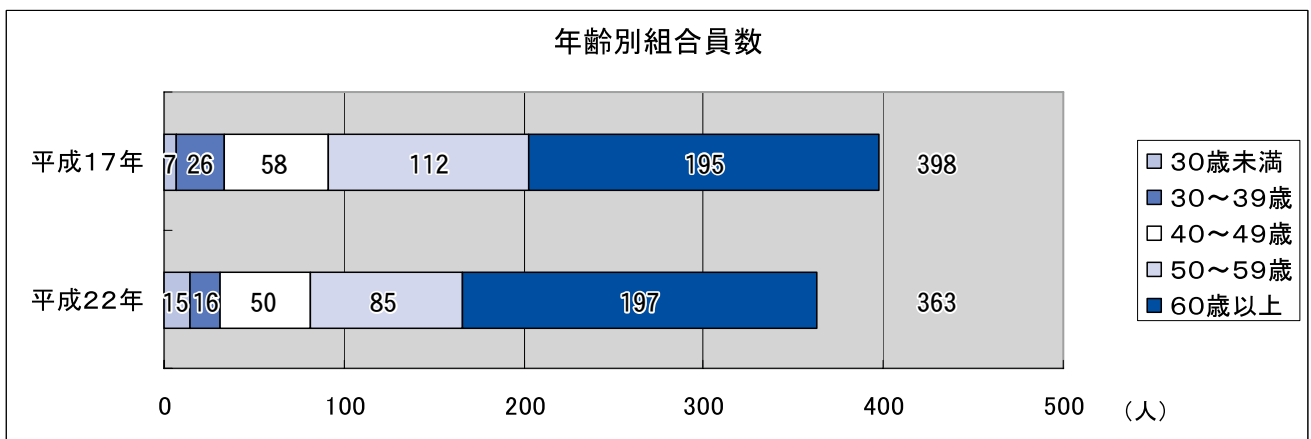
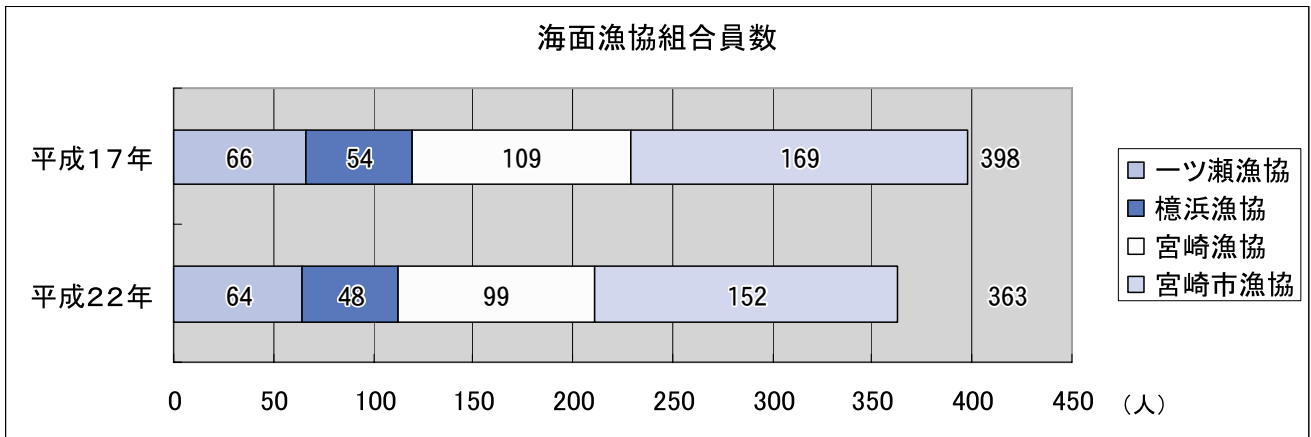
区分	林業	第一次産業	第二次産業	第三次産業	全産業	林業総生産の割合(%)	
						対第一次産業	対全産業
						(A) / (B)	(A) / (C)
宮崎市	847	24,577	155,719	1,099,976	1,319,240	3.45	0.06

※ 林業には狩猟業が含まれます。

(3) 水産業

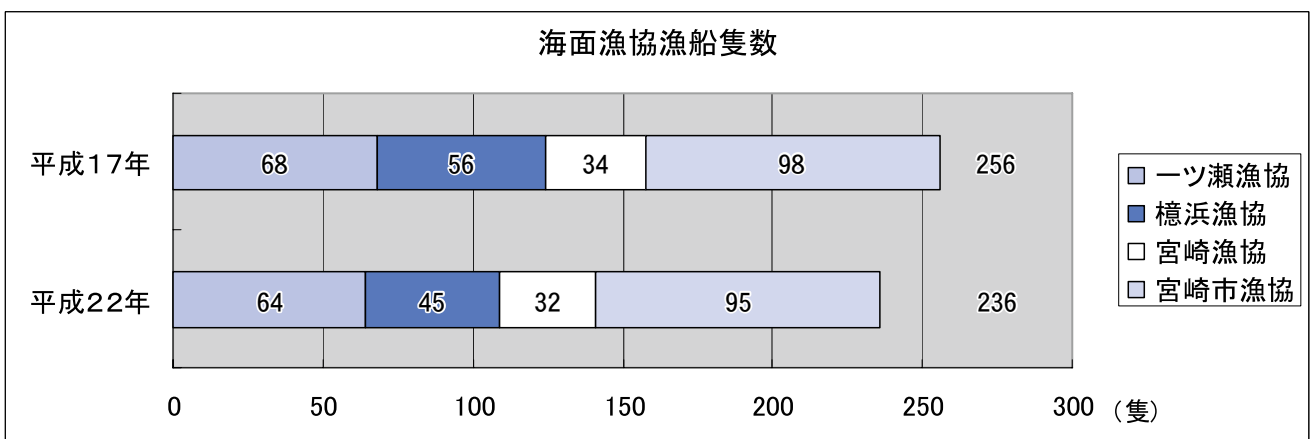
① 海面漁協組合員数

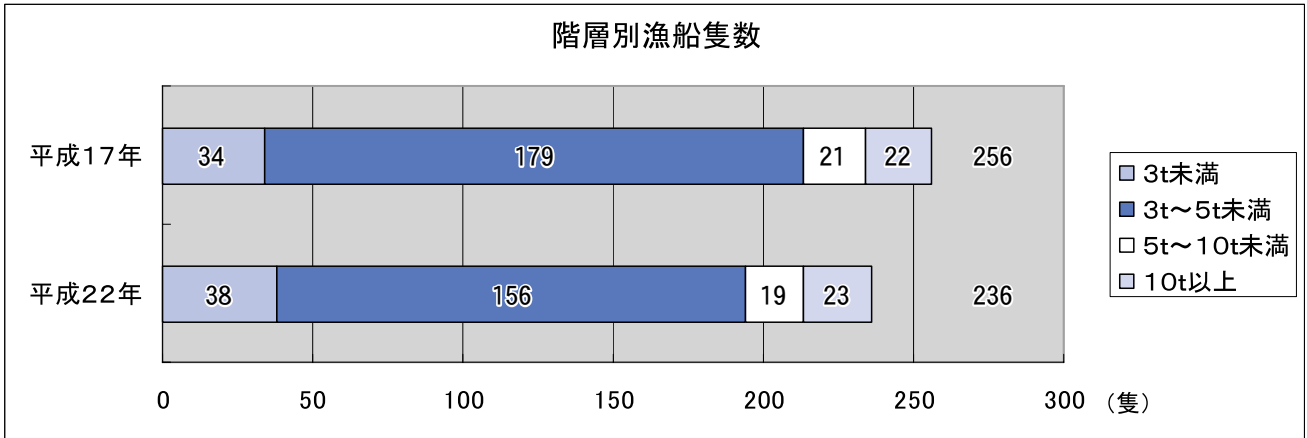
市内4漁協の組合員数は、363人で、5年前に比べて35人(8.8%)減少しています。また、年齢別で比較すると60歳以上の組合員数は197人(54.3%)で、5年前に比べて60歳以上の組合員数は2人増加しており、全体組合員数の減少にあわせて60歳以上の割合は5.3%増加しています。



② 海面漁協漁船隻数

市内4漁協の漁船隻数は、236隻で、5年前に比べて20隻(7.8%)減少しています。また、階層別漁船隻数で見ると236隻のうち5t未満の漁船は、194隻(82.2%)となっており沿岸漁業が中心となっています。





③ 海面漁協水揚状況

市内4漁協の水揚量は、2,489 tで、5年前に比べて967 t（28.0%）減少しています。また、水揚高については、約1,162百万円で、5年前に比べて約476百万円（29.0%）減少しています。

